

第1章 仙南地域の景観特性（仙南地域広域景観マスタープランより）

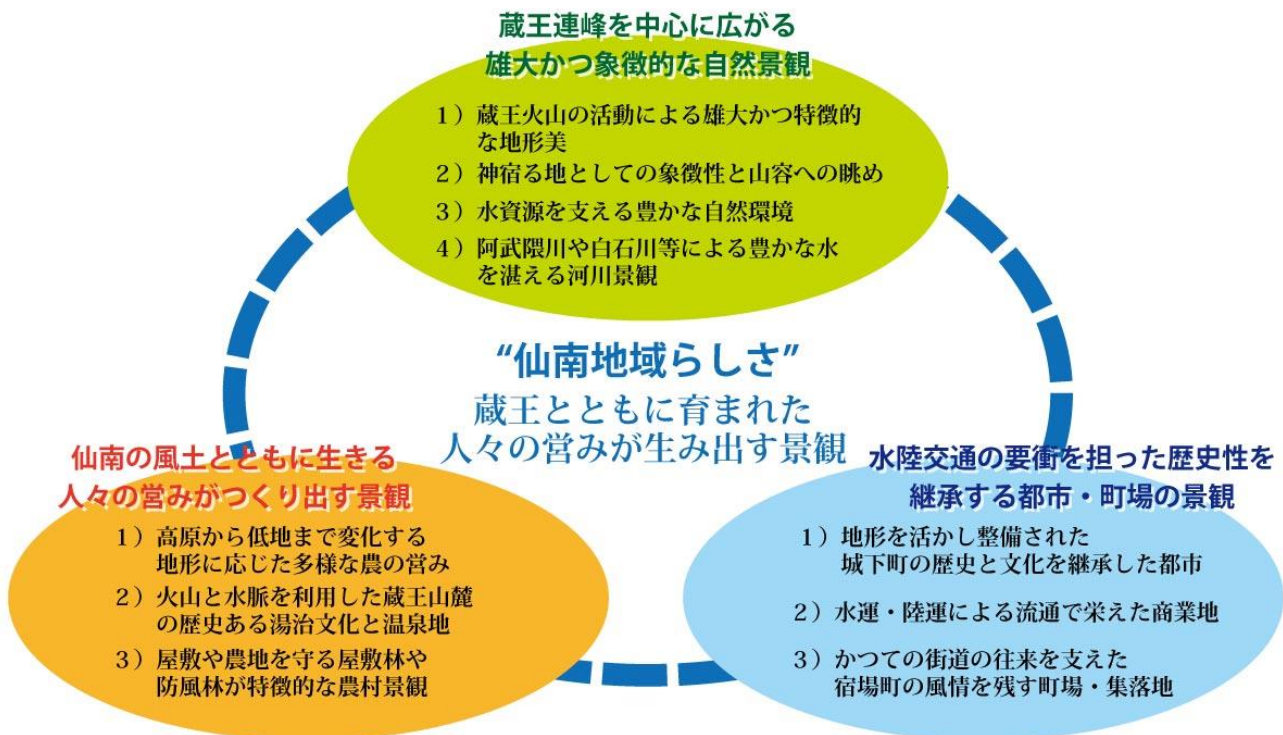
仙南地域の景観は、あらゆる場所からその姿を目にすることができる蔵王連峰の山岳景観を象徴とした山や川が織り成す自然景観と、仙南地域の風土とともに人々が生きてきた営み、歴史・文化が一体となって、“仙南地域らしさ”を醸し出しています。

その蔵王連峰を中心に多様に変化する地形において、仙南地域の人々の知恵と工夫により、その土地に応じた営みが育まれています。高原での牧場やそば畑、山麓での果樹園、広がりのある河川沿いの平野部での田園等は、豊かな恵みをもたらす生業とともにある景観として目にすることができます。古くから湯治場として栄える温泉地も、火山である蔵王連峰の恵みを活かす人々の営みが作り出す景観です。

市街地は、仙南地域の地理的特性を背景に、中世から近世にかけて国境の要衝として、陸上交通網である街道や水上交通網である河川によりネットワーク化されながら、人や物の交流を育み、形成された都市・町場の景観が、時代とともに少しずつ変化しながら、現在の市街地景観をつくり出しています。

また、仙南地域の人々は、太古から神山として蔵王連峰の山々を敬い、その自然を大切に守ってきました。

広域的な観点からみる仙南地域の景観特性とは、地域の象徴である蔵王連峰や阿武隈山地等の山岳及び阿武隈川や白石川等の河川の豊かな自然を礎に、これら自然とともに暮らしてきた人々の営みが生み出す景観が表れているものであり、これが“仙南地域らしさ”の醸成につながっていると考えます。



▲仙南地域の景観特性（全体像）

(1) 特性1 蔵王連峰を中心に広がる雄大かつ象徴的な自然景観

- 1) 蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美
- 2) 神宿る地としての象徴性と山容への眺め
- 3) 水資源を支える豊かな自然環境
- 4) 阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観

1) 蔵王火山の活動による雄大かつ特徴的な地形美

御釜を中心とする地蔵山、熊野岳、刈田岳などからなる蔵王火山は、過去数千回もの噴火を繰り返しながら現在の山体を形成した活火山です。「山の上の火山」と称されるように、蔵王火山は隆起した奥羽山脈の上に載っており、蔵王連峰がつくり出す山岳地は、変化に富んだ地形から構成されています。

五色岳・御釜や、駒草平、馬の背等の数多くの景勝地は、火山活動による噴火や溶岩流により形成された地形、崩壊地形等、さまざまな景観を形成しており、これらは他に類を見ない奥羽山脈と蔵王火山が数万年の時間とともに作り出した雄大かつ特徴的な地形美を持つ景観です。

これらの特徴ある地形美は、国定公園等の指定により自然環境の保全を図りつつ、多くの来訪者を魅了し、仙南地域を代表する美しい自然景観として地域内外の人々に親しまれています。

2) 神宿る地としての象徴性と山容への眺め

蔵王連峰は、奈良時代に蔵王権現の分霊が勧進された後、噴火の度に神聖化が進み神山として崇められ、平安時代の修験道による山岳信仰（蔵王信仰）の聖地と相まって、神宿る地としての象徴性を持つようになりました。さらに、江戸時代には、大小の溶岩が露出する荒涼とした景観があこの世とこの世を結ぶ地として認識され、その地へ赴くことは生まれ変わりによる功德となることから、民衆の間にも蔵王参詣が流行し、多くの人々が訪れるようになり、ますますその象徴性が高まりました。

この蔵王連峰が持つ神宿る地としての性質は、蔵王連峰を訪れることや蔵王信仰に関わらず、次第に仙南地域で生きる人々にとっても、その山容への眺めをもって象徴的な存在として感じられるようになっていけると言えます。

脈々と人々の心に受け継がれてきた蔵王連峰の象徴性は、仙南地域のどこからでも見える蔵王連峰の山容への眺めを通し、仙南地域らしさとして多くの人々の心に宿る景観となっています。

3) 水資源を支える豊かな自然環境

蔵王連峰を中心とする奥羽山脈は、夏の雨、冬の積雪により豊かな水を湛える山地であり、その水資源は、白石川水系である松川をはじめとした多くの河川や湧水として、仙南

地域に恵みをもたらしています。

これらの水資源は、河川沿いの農地を潤すとともに、白石川上流に整備された七ヶ宿湖や名取川の釜房湖等のダム湖では、水道用水やかんがい用水等に利用され、仙南地域や仙台都市圏の多くの人々の暮らしを潤す貴重な資源を担っています。

この豊かな水の環境は、蔵王連峰をはじめとした山（森）の環境の豊かさ（健全さ）の表れであり、山における森と水がつくり出す自然環境は、仙南地域全体の土地の豊かさを支える自然景観であるといえます。

4) 阿武隈川や白石川等による豊かな水を湛える河川景観

福島県に源流を有する阿武隈川は、宮城県境の丸森町から角田市にかけて、川幅を広げながら緩やかな流れとともに河道が大きく蛇行し、それに合わせて形成される瀬淵とともに変化に富んだ美しい水辺の景観を形成しています。丸森町では、水運とともに栄えた歴史を活かし、この豊かな阿武隈川におけるライン下り観光も行われ、船上（水上）からの川の眺めが多くの人に楽しまれています。

蔵王連峰に源流を有する白石川では、白石市街から一定の川幅を持った穏やかな流れとなり、大河原町から柴田町にかけて土手には多くの桜並木が整備され「一目千本桜」として多くの人に親しまれています。また、角田市街地周辺では、阿武隈川の河川敷において、桜並木と菜の花が整備されるなど、仙南地域を流れる河川には、花や木々と水の流れが織り成す美しい水辺景観が形成され、これらもまた仙南らしさを育む景観となっています。



▲御釜（蔵王町）



▲蔵王連峰の山容（角田市）



▲白石川上流の水芭蕉群生地
（七ヶ宿町）



▲白石川沿いの桜並木（柴田町）

(2) 特性2 仙南の風土とともに生きる人々の営みが作り出す景観

- 1) 高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み
- 2) 火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地
- 3) 屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観

1) 高原から低地まで変化する地形に応じた多様な農の営み

仙南地域では、蔵王連峰を中心とした奥羽山脈や阿武隈山系により、仙南地域の地形は変化に富んでいると同時に、標高 1,800m を超える蔵王連峰による標高差から場所により気候風土も大きく異なります。

七ヶ宿町では、高原の気候や地形条件に応じた牧場経営やそば栽培等、特色ある農の営みが育まれ、丸森町の山間地等では斜面地での棚田による稲作の風景も見られます。蔵王山麓に位置する蔵王町では、丘陵地形に沿って果樹園が広がり、栽培される果物は蔵王町の特産品となるなど、変化する地形に応じた農の営みが地域ごとの特色ある景観となっています。また、豊かな水を湛える阿武隈川や白石川等の河川沿いには沖積平野が広がり、豊かな水環境と合わせ、稲作を中心とした広々とした田園景観が見られます。

これら、農の営みが作り出す景観は、季節によって刻々とその姿を変化させることで季節を感じさせ、それらを生業とする人々が暮らす集落地と一体となって、仙南地域の豊かさを醸し出す景観のひとつとなっています。

2) 火山と水脈を利用した蔵王山麓の歴史ある湯治文化と温泉地

蔵王連峰の火山性の地形と豊かな地下水は、山麓において温泉の恵みをもたらし、古くから各地に湯治場が形成され、多くの人々を癒してきました。近世に始まる蔵王参詣や、近代の蔵王連峰の自然を楽しむ観光も影響し、これらの湯治文化は次第に多くの来訪者を癒し楽しませる温泉地として、今では仙南地域を特徴づける営みのひとつとなっています。

仙南地域の温泉地は、旅館等の数はあまり多くはないものの、蔵王連峰の美しい自然と調和した静かな風情ある景観を形成しているのが特徴のひとつです。また、山間地で生活を始めた木地師による工芸品のひとつであるこけしづくりも相まって、温泉地の土産品として店先に並ぶようになるなど、仙南地域の湯治文化が生み出した特徴ある景観が受け継がれています。

3) 屋敷や農地を守る屋敷林や防風林が特徴的な農村景観

仙南地域では、標高の高い蔵王連峰がもたらす気象現象のひとつとして、冬から春先にかけて強い風が吹き下ろす「蔵王おろし」は、人々の暮らしの中で避けて通れないもののひとつです。

かつて強い風や雨は、時として屋敷や農地に大きな被害をもたらすものであり、先人たちは、屋敷地や農地を守る工夫として、高木を屋敷地の周囲や農地の脇に風向きに応じて配置することで対応をしてきました。このような工夫は、仙南地域の農村集落のあちこちで見られます。

川崎町では、町の中心を通る旧街道に対し、垂直方向に街区ごとに高木が立ち並ぶ防風林の景観が特徴ある農村景観となっています。角田市では、阿武隈川沿いの田園地域において、広がりのある平野部において河川沿いを吹き抜ける風や山からの吹き降ろしの風等を意識した屋敷林を持つ屋敷地が点在し、広がりのある農地とともに特徴ある田園景観となっています。

生活様式の変化と建材・工法の変化により、農家住宅等における屋敷林は減少しているものの、仙南地域の風土とともに生きる人々の営みがつくり出してきた景観として、今でも目にすることができます。



▲春の田園風景（蔵王町）



▲秋の田園風景（蔵王町）



▲鎌先温泉（白石市）



▲旧街道の松並木と屋敷林（川崎町）

(3) 特性3 水陸交通の要衝を担った歴史性を継承する都市・町場の景観

- 1) 地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市
- 2) 水運・陸運による流通で栄えた商業地
- 3) かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地

1) 地形を活かし整備された城下町の歴史と文化を継承した都市

中世以降、国境に位置する仙南地域は、関東と東北を結ぶ交通の要衝であったことから、歴史的に重要な役割を担うエリアとして、都市が築かれてきました。

なかでも白石市の市街地は、近世に入り本格的に城下町が築かれ、その際、城山により吹き降ろしの風を弱められる位置に城下町を配するとともに、白石川から水を引き入れ城下には堀や水路を張り巡らしました。この城山や白石川等の自然を巧みに利用した基盤は現在の市街地にも継承され、今でも城下には豊かな水が流れ、武家地由来の低層住宅地や町場由来の商店街等とともに歴史性を継承した景観が見られます。近代に入り鉄道網が整備され、城下の脇に駅が置かれることにより、駅周辺から城下町にかけて白石市の中心を担う市街地の景観が形成されています。

また、柴田町の四保山や村田町、川崎町においても、広域交通の要衝として、丘陵部に山城を配し、ふもとに城下が整備されるなど、地形条件を活かした都市が築かれることにより市街地が形成され、現在でも町割りの名残を示す道筋や町場の景観を通してその歴史性を見ることができます。

2) 水運・陸運による流通で栄えた商業地

仙南地域は、近世には奥州街道、笹谷街道等の広域交通網が交差するとともに、阿武隈川による水運等、水運・陸運の両面から広域交通の利便性の高い地域で、現在でも東北本線等の鉄道網や福島・宮城・山形を結ぶ国県道が充実している地域です。

村田町は、この広域交通の地理的特性を活かし、かつて紅花などの売買による流通で栄えた商家町に由来し、今でも店蔵と門を持つ建物が建ち並ぶ歴史的な街並みが継承されています。近代化に伴い、その周辺に公共施設等の立地が進み、商家町として栄えた歴史性を継承する町場とその周囲により、村田町の中心を担う市街地景観が広がっています。

丸森町や角田市は、阿武隈川の水運による流通上の拠点となる町場や中継地として栄えた歴史を有する町です。現在では、水運の機能は鉄道に代わり失われており、丸森町には川湊の痕跡と、水運に代わるライン舟下りが行われているものの、川との関わりはわずかになっています。しかし、それぞれの市街地内には、水運で栄えた歴史を今に伝える店蔵等の歴史的な建物が残っており、その歴史性を緩やかに継承した市街地景観が形成されています。

3) かつての街道の往来を支えた宿場町の風情を残す町場・集落地

仙南地域には、近世に東北の大動脈である奥州街道，現在の仙台市と山形市を結ぶ笹谷街道（紅花街道・羽前街道も含む），福島県から宮城県を經由して山形県を結ぶ七ヶ宿街道が整備され，それぞれに数多くの宿場町が形成されました。

なかでも大河原町の中心部は，奥州街道の大河原宿に由来し，今でもかつての街道であった通り沿いには宿場町の名残をとどめる建物等が見られます。大河原町は，この宿場町を中心に，街道が担った交通機能が国道や鉄道へと変わったことに合わせ，駅周辺や国道沿いへと市街地が広がり，現在の市街地景観が形成されています。

その他，奥州街道の宿場町としては，白石市の白石宿や柴田町の槻木宿等も形成されましたが，いずれも近代化に伴う市街化の過程でその面影を失い，今では景観からその特徴を見つけることは難しくなっています。

七ヶ宿町は，蔵王連峰の山間に位置し，町内をかつては七ヶ宿街道が通り，その名前の通り7つの宿を有していました。街道の道筋は現在の国道へと変わる中，ダム整備に伴いかつて宿場町であった集落1地区は失ってしまうものの，その他の集落は，生活様式等の変化により街並みは緩やかに変化しつつも，街道と点在する集落地の関係は維持され，街道沿いの町らしい景観が継承されています。



▲堀割と武家屋敷地（白石市）



▲街道沿いの宿場町の名残（大河原町）



▲紅花で栄えた蔵の街並み（村田町）



▲阿武隈川ライン下り（丸森町）